

# おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 22 号 (11 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 山東 県新人第1ラウンドを制す

10月31日(土)、11月1日(日)と県新人の第1ラウンドが真室川にて行われました。山東は必勝を期して30日から瀬見温泉「旅館 小川屋」に前泊。10月31日初戦の相手は県総体チャンピオンの羽黒高校。2週間前に行われた選手権決勝では、山形中央と延長まで行く熱戦を演じたばかり。チームは代替わりして初めての公式戦となりますが、格上チームであることは間違いありません。もちろん気合を入れて臨みました。

試合は前半五分五分。羽黒はやはり新チームになったばかりでまだじっくり行っていないか、連携不足は否めず。押し込まれるかと思いきや、山東もゴールまで迫ることができる試合展開。特に羽黒DFとMFの連携不足を突く山東の攻撃が、なかなか形になっている。守備でも、縦パスを入れられたときのセカンドボールを拾われピンチを招くものの、それ以外は安定というか、崩されるまではいならず。「捻り合いではチャンスをしっかりものにした方が勝つ、だから早く入れてしまえ～」とベンチから念じていると、終盤、右からのクロスボールが藤盛の頭に当たりながら後方へ流れる、その瞬間GKが前に出てしまったため、ボールは無人の羽黒ゴールに転々と弾んでいく。松永がゴールライン付近で押し込み、ごっつぁんゴール(ただし山東公式記録では藤盛のボールがそのままゴールインしていたということで藤盛の得点です)。ラッキーゴールに喜ぶものの、何とも複雑な気分。

後半は二分八分で羽黒に押し込まれる展開。山東は羽黒のシンプルなボール回し、特にアウトサイドから斜めに入るボールに対応できないため、後手を踏みまく<sup>1</sup>。そんな中、スローインのボールに反応した松永が右サイドでボールを確保、センターリング、ニアサイドに飛び込んだ藤盛がボールの軌道をしっかり変える技ありシュート。得点差を2点差に広げる。苦しい展開になりかけていただけに胸をなでおろす追加点。その後も流れは変わらず、攻め立てられる。選手権の羽黒戦で1対1の対応に難があると今更ながら分かったため、この2週間1対1の練習(および1対2、2対2の練習)をしましたが、複数人で守るとなると話は別なのか(ただ1対1の練習の成果は結構感じ取れました)。懸案の体力不足もあり、終盤はヘロヘロ。それでも何とかゴールは死守していましたが、残り5分くらいで羽黒のロングスローのボールが流れたところを押し込まれ、2-1。ロングスロー、そして高さのある選手、とそろったら、その選手の背後が危険とはじめから分かっているはずだが、「分かっちゃいるけどとめられない」のか、寄せが

<sup>1</sup> 原因としては、アウトサイドの選手がアウトサイドでマッチアップの際に、寄せ・限定が甘く、フリーでプレーさせている、インサイドの選手のアウトサイドへの寄りが遅いため簡単にギャップに入られている、などが挙げられます。

甘いのか、正直いらない失点でした。その後は辛うじて羽黒の攻撃をかわし、2 - 1の勝利。2週間越しの番狂わせにベンチ、応援席が沸きました（特に応援に来てくださった保護者の方々のお顔のほころび様がすごかったです）。

旅館に帰ると、旅館の方々がびっくりするくらい喜んで下さりました。真室川から瀬見への帰りのバスの時間を早めたので、負けたと思っていたようです。気分良くお湯につき、次戦の米沢興譲館戦に思いをめぐらしました。

11月1日は先日から間断的に降った雨のためスリッピーなピッチ状況。興譲館には足の速いFWがいるとの情報を得ていたので、まずは大きなボールをしっかり跳ね返しつつ、DFとMF、MFとFWの連携により、ゲームをコントロールすることをゲームプランとしました。ところが！ホイッスルとともに山東DFが裏に走らされ、辛くもCKに逃げる展開が連続する、相手の思うつぼの立ち上がり。興譲館のFWは山東のサイドバックとセンターバックのギャップ（間）を突くのがうまく、山東は後手を踏む。前半のうちに何とか流れを引き寄せ、落ち着いてボール回しをしたいという願望とは裏腹に、興譲館に主導権を握られる前半。山東はスリッピーなピッチ状況の中でボールの跳ね返し所を予測することができないプレーが見受けられ、ピッチを味方にできていない。ピッチ状況が悪いときこそごまかせない技術が問われるとはよく言ったもので、厳しく言うと山東の技術力の低さは目を覆うばかり。それでも前半を0 - 0で切り抜ける。

ハーフタイム、顧問が指示を出すものの、選手の意識が虚ろに感じられる。「まずい・・・」と感じつつ選手を送り出しました。

そんな予感はありませんでしたが、後半は守備が安定しだし、CDFとボランチのパス交換が増え、ボールポゼッション率が高まる。あとは点数が入るばかりなのですが、シュート直前のパスやドリブルからシュートへいたる直前のタッチが雑で、押し気味な割には決定的シーンを作り出せず。もやもやした展開の中、怪我明けの（怪我しつつプレーし続けている）賢祐をピッチに。選手権の米東戦もそうでしたが、彼は流れを変えることのできるプレーヤー。ドリブルからのパス、ドリブルからのシュートに期待を込めてピッチに送り出しました。すると、想定範囲外！の事態でしたが、彼がピッチに入っただけで得たセットプレーのこぼれ球が、浮いた状態で彼の前へ。相手選手もいましたが勇敢にも頭で突っ込み、混戦の中のヘディングからネットを揺らす。想定外のプレーにベンチにいる2年生が特に沸く。その後も攻め込み、惜しいシュートもありましたが、体を張って守る興譲館ゴールをこじ開けるまでいたらず。ともかく1 - 0の辛勝。羽黒戦同様、結果は出ましたが、内容は課題だらけの試合となりました。ただ、1対1での攻防・球際での執念では興譲館に勝っていたのではないかと、そこがセットプレーからのしぶとい勝ちにつながったのではないかと、前向きにとらえております。

次戦、県新人準決勝の相手は、山形中央です。いわずと知れたチャンピオン・チーム。どんな戦いとなるか、楽しみです。もう一つの準決勝のカードは日大 - 山南。Yリーグ1部の日大に山南がどんな戦いを挑むか、こちらも楽しみな勝負です。応援よろしく願います。

最後になりましたが、保護者会の皆様、2年松本君のご家庭から差し入れを頂戴しました。ありがとうございました。

11月7日(土) 県新人準決勝 VS 山形中央 天童第2 11:00 キックオフ

11月8日(日) 県新人決勝 天童第2 11:00 キックオフ or

県新人3位決定戦(東北大会出場決定戦) 天童第2 12:50 キックオフ